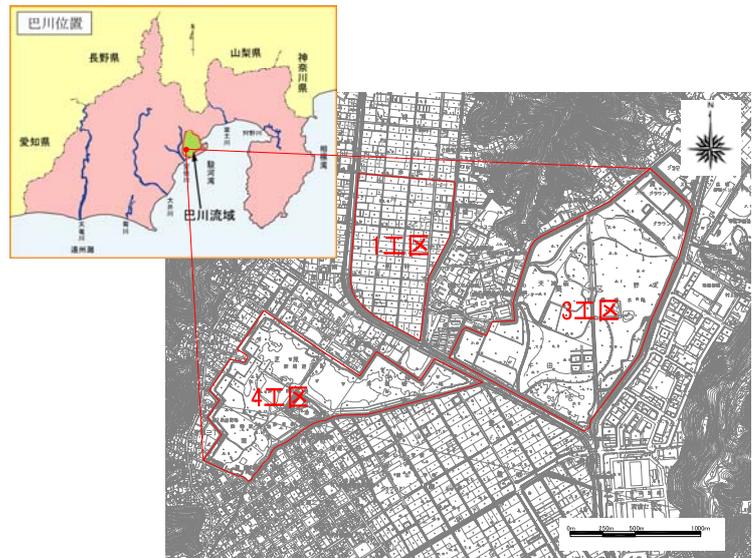


## ＜巴川流域麻機遊水地自然再生全体構想の概要＞

### 1 自然再生の対象となる区域

静岡市街地（県庁、市役所付近）の北部に位置し、比較的良好な湿地環境が残る麻機遊水地第1工区（約22ha）、第3工区（約55ha）、第4工区（約32ha）の総面積約109haを自然再生の対象区域とする。



図：自然再生の対象となる区域

### 2 自然再生の目標

#### (1) 自然再生の目指す自然の姿

本再生事業は、麻機地域に昔から暮してきた多様な生きものたちが、遊水地で生息・生育できる環境を再生していくことを目標とし、麻機の風土に刻まれた人と自然との関係を手がかりに、順応的に進めるものである。

また、事業の対象区域は麻機遊水地第1, 3, 4工区であるが、生態系としてつながる流域全体を視野に入れ、将来的には、この再生の「わ」を市民・団体・行政の協働により、巴川流域に広げていくものである。本構想では、良好な生態系（環）、里地里山環境にあった人と自然との共生（和）、そして周辺の自然とつながり（輪）を取り戻し、後世に伝えるために『生命にぎわう わ（環・和・輪）の湿地麻機』を目指す。

#### (2) 自然再生の目標

##### ○良好な水環境の再生

麻機の生命の源でもある水環境が、様々な要因により悪化しているため水環境の改善を図る。

##### ○在来種の保全と生態系のバランスを保つ

外来種の増加や植生遷移により、麻機の生態系が崩れ始めているため、在来種を保全しながら、生態系のバランスを保つ。

##### ○人と自然との持続的な関わりづくり

人と自然との関わりを見直し、後世の人達が持続的に自然の恵みを受けられる環境を目指す。

##### ○周辺とのネットワークづくり

麻機の自然とその周辺の山、田畑、巴川流域とのエコロジカルネットワーク、さらには市民・団体・企業・行政との人的ネットワークを図る。

### 3 巴川流域麻機遊水地自然再生協議会構成員

学識者 6 名、関係行政機関 7 機関、NPO等の団体 25 団体、個人 19 名 合計 57 名

※平成 19 年 3 月現在